



「お骨」は

「仏様」では

ありません

皆様の中には、少なからず驚かれる方がいらっしやるかもしれません。しかしながら「お骨」そのものは「仏様」ではなく、また「仏様」がやどっているのでもないの

です。

私達はこの世界に身体をもって生まれてきます。

そして年々成長し、身体もそれと共に大きくなり、痛い、痒い、暑い、寒いと感じながら生きていきます。私達がこの世界を生きていくには、この身体は絶対に必要なもので、たとえどこか気に入らないところがあろうとこの身体と共にいます。

ところが、人生が終わりを迎え、お浄土へ往く時にはこの身は置いていかなければなりません。お浄

土へは身体ごと往くことはできないのです。

私達がお浄土へ往った後には身体が残ります。つまり残った身体は、私達がこの世界を生きてきた「証し」とも言えます。残念ながら私達には亡き人がお浄土へ往ったのかどうか確かめる方法がありません。それは、私達の目には見えませんし、手で触れることもできないからです。

ですから私達には「お骨」があるということが、その人がお浄土へ往ったと思える数少ない証拠と

なるのです。

私達の浄土真宗を開かれた親鸞聖人は、正しくお念仏を称えることがお浄土へ往ける唯一の方法だと教えて下さりました。正しくお念仏を称えて、来たるべき時にお浄土へ往った時、そこに「お骨」が残ります。

つまり私達浄土真宗の門徒にとって「お骨」がそこにあるということはその人がお浄土に往って仏様の仲間入りをした「証し」なのです。



## 何故「お骨」が

## 大切なのか

このように、「お骨」は「仏様」ではありませんが、「仏様」の仲間入りをした「証し」として、私達が目に見え、手で触れることができるものなので、言わば「お骨」の向こうにお浄土で仏様の仲間入りをされた方を偲ぶことができます。また私達もいつかこの世界に自分の「お骨」を残してお浄土へ往くことができると感じることができると感じることができます。

このように「お骨」は「仏様」ではありませんが、大切な意味を持っています。ですから私達はそれをしっかりと理解して大切にすることが重要です。

私達の「いのち」というものの不思議さがいっぱい詰まっているのが「お骨」です。化学的にどうこう言うのではなく、私達の心で感じる部分のために私達は「お骨」を大切にします。



俱会一処 (くえいつしよ)

俱会一処という言葉は、同信同行の人が浄土で一処に会うということです。

お浄土だけに限らず、この世でも同信同好の人とたのしく、くらすのはいいことだ。

中には、いやな人、嫌いな人とも出合わねばならぬのが娑婆というもの。でもそんな人もその人なりにいい所も持っている。その人のせいで発奮や反省の出来るときもある。  
その人も同行だもの同朋だもの。

三月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 三月七日(土)～十一日(水)

安芸教区 広陵東組 西應寺

講師 平 慈敬師

○後期 三月十三日(金)～十六日(月)

北海道教区 留萌組 西暁寺

講師 藤 順生師

○春季彼岸会布教

三月十八日(水)～二十日(金)

北海道教区 函館組 誓願寺

講師 上野 顕至師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

○浄土真宗のみ教えについて布教使のご法話を頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいませう。お待ちしております。

◎三月二十日(金)は春季彼岸会の御中日にあたりますので月忌参詣はお休みさせていただきますので、どうぞお寺にお参りください。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号  
本願寺小樽別院

電話 (一三四) 二二一〇七四四番  
FAX (一三四) 二二一〇八〇八番  
テレホン法話 二二七一六六番